

平成30年度 確かな学力の向上・定着に向けて ＝学力の向上・定着に向けた基本的な考え方＝

帯広市教育委員会

<はじめに>

児童生徒を取り巻く環境が、高度情報化、グローバル化や価値観の多様化、さらには少子高齢化や核家族化など、複雑な様相を見せている中で、学校には、「生きる力」を育むという理念の実現のために、具体的な手立てが強く求められています。

このような中、私たちは児童生徒の生きる力の基盤をなす「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を図ることはもとより、帯広市教育基本計画の理念である「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」に基づき、帯広らしい教育の充実に一層努めなければなりません。

また、全国的な課題である基礎学力の向上については、学校が組織として一丸となり取り組みを進めることが重要です。平成29年度全国学力・学習状況調査では、毎年実施している国語、算数の小・中学校8科目が実施され、本市全体の状況については、平均正答率でみると小・中学校の2教科8科目中、小学校、中学校ともにすべての科目において全国平均を下回りましたが、中学校において読解力や応用力を問う国語B、数学Bにおいて全国平均との差が縮まり、改善の傾向が見られました。

一方、ここ数年の平均正答率から改善が見られる学校の共通点として、「教職員が一体となって授業改善に取り組んでいる」、「中堅・ベテラン教員が若手教員を指導するシステムが整備されている」「授業中や家庭学習の約束ごとが学校全体で統一されている」等の特徴が見られることから、こうした各学校の「強み」や「よさ」を全市に広げていきたいと考えています。

各学校におかれましては、引き続き、教育の機会均等という義務教育の趣旨を踏まえ、児童生徒が将来、自立し豊かな社会生活を営むための「生きる力」の知の側面である「確かな学力」の定着・向上に向け、「授業改善」と「望ましい生活習慣の確立」を柱に学校・家庭の連携を一層すすめて、確かな学力の向上の推進に努めていただきますようお願いいたします。

<理念の共有>

■自立した社会生活のための基盤

児童生徒が将来、社会的に自立し、充実した生活を送るための基礎・基本として、一人一人の「確かな学力」を身に付けさせることは、義務教育の責務である。

■将来の選択肢の拡大

確かな学力を身に付けさせることで、一人一人の児童生徒の人生において、進路や職業の選択肢を広げることができる。

■子供のモチベーションの向上（学習意欲・自己肯定感）

子供には無限の可能性があり、一人一人きらりと光る宝物を持っている。確かな学力を向上させるためには、一人一人の学習意欲と自己肯定感を高めることが大切である。

■オール北海道で取り組むべき課題の認識

確かな学力の向上は、北海道全体の課題として、本市においても責任をもって取り組むべき課題である。

■帯広版アクティブ・ラーニングの考え方の浸透

新しい時代に求められる学習のあり方・考え方を、単に小中学校の授業時間に学校等の教室で教諭が行う活動に留めず、帯広市の「人」「場所」「時間」などの教育環境すべてを活用し、開かれた学びを進めていく。

<今年度の方策の柱>

■平成21年度学力向上プロジェクトチームの提言の具現化

平成21年度の学力向上プロジェクトチームの提言内容に基づき、引き続き取り組みをすすめるとともに、これまでの取り組みの検証と次のステップに向けた検討を始める。

■オール北海道で取り組む内容の具体化

北海道教育委員会が進める各種の学力向上策について、帯広市らしい取り組みとして、具現化する。

■学校力向上に関する総合実践事業の推進

啓西小学校（実践指定校）、広陽小学校・西陵中学校（近隣実践校）の学校力向上に関する取り組みを市内全体に広め、組織的な学力向上の支援を行う。

■帯広市独自の方策・結果公表の充実

帯広市校長会等と連携し、学力向上にかかわる各種アイデアを共有し、本市独自の取り組みをすすめるとともに、結果について適切な方法で主体的に公表する。

<教育委員会の取組>

■学力向上推進プロジェクトチームの取組

昨年度に引き続き、現職教諭等による学力向上推進プロジェクトチームを設置し、「学級経営・授業改善ワンポイント講座」等を実施するとともに、学校教育指導室と教育研究所が連携し、学習意欲や指導技術を高める方法についての研究をすすめる等、本市における学力向上の取組みをリードする。

■授業改善推進チームの取組

平成27年度から実施している授業改善推進教員の成果を、市内小中学校に還元し、課題やまとめのある授業づくりなど、帯広スタンダードを確立する。

■学力向上キャンペーン「みんなで5点ずつアップ！」

引き続き「みんなで5点ずつUP！」を合言葉にする。

※日常のあらゆるテスト問題に適用し、子供たち個々の頑張りを評価する。

※解答の文字の書き方や、名前の丁寧さを、日常的に評価する。

■授業改善に向けた取組の継続的な推進

※学校教育指導訪問の充実（年3回以上） ※公開研究会の充実・拡充

※授業改善推進教員の活用 ※習熟度別指導等による指導方法の工夫改善

※エリア・ファミリー（小中連携）の視点からの指導方法工夫改善 他

■教育研究所による独自教材の作成・配付

クラウド型サーバーシステムを活用し、繰り返し使えるプリントや、本市の課題に即した問題用紙などを学校と家庭で手軽に活用できるよう内容の充実を図る。

<学校に期待すること>

■学力向上に向けた考え方の共有

- ・児童生徒の「よさ」を伸ばすという発想の重視
- ・各種調査の客観的なデータの活用
- ・学校便りやホームページによる積極的な結果の公表
- ・組織的な学力分析や授業研究の推進
- ・日常的な校内研修の充実（短時間、隙間の時間を活用した研修の積み重ね）

■基礎・基本の定着（学級経営の充実）

- ・学習規律の徹底 ・1単位時間に定着や習熟の時間の確保
- ・ノート指導の徹底（内容の充実と目標冊数の設定、推奨ノートの設定等）
- ・チャレンジテストの活用 ・朝読書、朝学習の定着
- ・宿題、家庭学習の定着 ・教育研究所の資料活用（クラウドサーバーの利用）
- ・夏冬休み、放課後、土曜日等の学習サポート ・繰り返し学習する機会の位置づけ

■家庭との連携

- ・「早ね・早起き・朝ごはん」の取組みの推進・啓発
- ・授業参観の充実（学校・保護者双方が真剣勝負をする！）
- ・家庭学習の定着（手引きの活用・教師による確実な添削・評価と速やかな返却）